



女性こそ積極的にがん検診を

女性に多いがん

女性に多いがんというと、乳がんと子宮がんを思い浮かべますが、他の部位のがんにも気をつける必要はあります。女性は全般的にがん検診の受診率が男性よりも低く、早期発見のチャンスを逃しているおそれがあります。

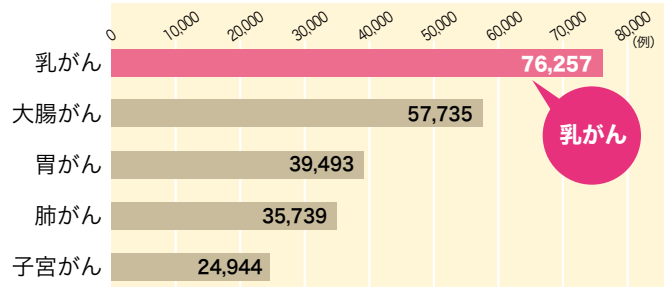
最もかかりやすいのは乳がん

女性が最もかかりやすいがんは、やはり乳がんです。現在では11人に1人がかかるといわれており、胃がん・肺がん・大腸がんなどが加齢とともに増加するのに対し、30歳代から増え始め、40～60歳代がピークとなります。

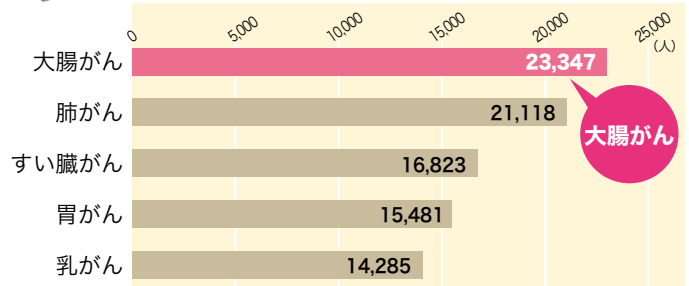
死亡数が多いのは大腸がん

がんで亡くなる女性で一番多いのは、乳がんではなく実は大腸がんです。次に多いのは肺がんで、タバコを吸わない女性も肺がんになります。がんで死なないためには、女性もがん検診を受ける習慣をつけることが大切です。

女性がかりやすいがん (2014年 年間罹患数)



女性の死亡者が多いがん (2017年 年間死亡者数)



出典:「国立がん研究センター がん登録・統計」より

女性が必ず受けておきたいがん検診

20歳以上

子宮頸がん

40歳以上

乳がん、胃がん、
肺がん、大腸がん

健康保険組合が実施している健診や婦人科オプション、自治体のがん検診などをぜひ利用してください。



子どもの
症状

こんなときは要注意

発熱

監修
大川こども&内科クリニック 院長
大川 洋二

体温は日内変動があり、朝時間を決めて体温を測り平熱とします。小児の発熱とは37.5度以上と考えますが、機嫌がよく食欲もあれば、心配ありません。発熱はインフルエンザ等ウイルスの活動を抑える働きもありますが、つらそうなときは体に負担がかかり、免疫が低下しているときもあります。子どもの状態で評価しましょう。

発熱時の対応

●身体を冷やす

衣服や布団は普段より1枚減らし、様子を見ます。つらそうであれば、または子どもが好めば冷却剤(アイスパック)で首の後ろや脇の下、足の付け根などを冷やします。嫌がるようであれば無理に冷やす必要はありません。

●水分を与える

汗をかいて自然に熱を下げ得るために水分を与えます。与えるのは、ミルクや麦茶、水で十分ですが、食事ができないときは経口補水液などがよいでしょう。

●食事は食べやすいものを

おかゆや柔らかいご飯、麺類など、消化がよく本人が食べやすいものを食べさせましょう。

●つらそうなときは解熱剤を使用

38.5度以上でつらそうなときは、医師の指示に従って解熱

剤を使ってもよいでしょう。40度を超える場合は使用しましょう。解熱剤は安易に使用しないことが大切ですが、決して使用しない考えは誤っています。適正使用が肝心です。

受診のめやす

発熱を伴う病気では、上気道炎やインフルエンザの他に髄膜炎や脳症、肺炎などに注意が必要です。



なるべく早く
受診

- 顔色が悪い
- 水分がとれない
- 尿が出ない(おむつが濡れない)
- 呼吸が苦しそう
- 生後3カ月未満の赤ちゃんの高熱



緊急に受診

- けいれんが15分以上続く
- けいれんを繰り返す
- 意識がはっきりしない

休日・夜間に子どもの症状の対処に困ったり、受診した方がよいのか迷ったら……▶ こども医療でんわ相談 #8000